

Casting Our Eyes  
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



# Financial Report

第95期中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



Ahresty

株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

# Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

## 製品別概要



### ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

### アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



### 完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



# (a:resti)

これからは、より質の高い  
 Research、Service、Technologyを  
 追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

## CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
四半期連結財務諸表	7~8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第95期第2四半期(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月



代表取締役社長

高橋 新

経営  
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、  
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

## (1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて創ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」となることを基本方針に、「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」ことをスローガンとしてあるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定め展開してまいりました。

この10年ビジョンではグローバルTOP企業となることを目指し、海外における事業拡大を行ってきたものの、急激な成長に伴う生産トラブル等により安定した収益を継続できなかったこともあり、2014年12月に、新10年ビジョンを「信頼を究めよう 2025」と改定し、「お客様からの信頼No.1」「グローバルで車の軽量化に役立つ」「売上高2000億円+α」をありたい姿とし、お客様からの信頼を究めつつ、安定して持続的に成長していくための基本戦略を事業戦略、機能別戦略、マネジメントの取組みとして決めました。

新10年ビジョンをベースに中期経営方針では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な活動を推進しております。

なお2016年度の目標値は、売上高：1,540億円、売上高営業利益率：5%、総資産当期純利益率：3%、株主資本当期純利益率：7%としております。

## (2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を持ち、迅速な意思決定が可能な経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と経営と資本の生産性の向上を図り、企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

なお、取締役会の監督機能の強化によるコーポレート・ガバナンスの一層の充実という観点から、自ら業務執行をしない社外取締役の機能を活用するため、平成27年6月18日開催の当社第94回定時株主総会の承認をもって、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

また、平成27年6月から適用開始されたコーポレートガバナンス・コードについては、当社のガバナンスの実効性向上に向けて積極的に対応を行っていく方針です。

## コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。
- 11 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度をもって対応し、不当な要求や取引の要請等は断固として排除します。

## 環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
  - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
  - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
  - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
  - ④CO<sub>2</sub>排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
  - ⑤環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

# 事業の概況

## Financial Highlights

### ■企業集団の事業の経過及び成果

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善傾向が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続いております。

海外においては、アメリカの景気は回復が続いており、アジアでは中国の景気は減速し、消費の伸びがやや低下しています。

インドの景気は持ち直しているなど世界の景気は、アジア新興国等において弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復しています。

このような環境のなかで、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高72,206百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益1,819百万円（前年同期比280.4%増）、経常利益1,236百万円（前年同期は経常利益45百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益872百万円（前年同期は四半期純損失107百万円）となりました。

### ■事業別売上の状況

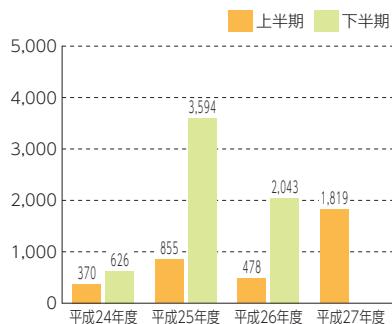


ダイカスト	68,552百万円
アルミニウム	2,590百万円
完成品	1,063百万円

### ■業績の推移（連結）

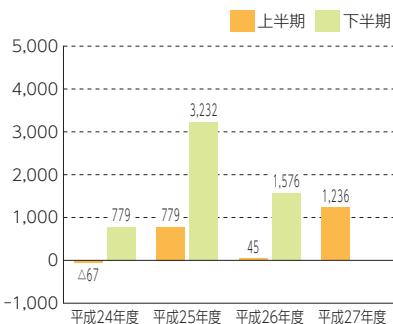
#### ■営業利益

(単位:百万円)



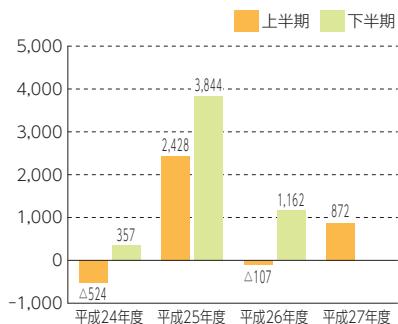
#### ■経常利益

(単位:百万円)



#### ■親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

(単位:百万円)



# 事業別の概況

## Financial Highlights

### ダイカスト事業

#### ①ダイカスト事業 日本

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、昨年の消費増税以来続く販売不振、また、今年4月の軽自動車税引き上げによる国内販売の減速が続いています。一方で円安と原油安が続いていることを背景に、北米市場向けを中心とした輸出は好調を維持しています。当社もこれらの影響を受け受注量は減少傾向にあるものの、主に地金市況の影響により、売上高は31,157百万円（前年同期比2.7%増）となりました。収益面においては、主に減価償却費の増加等により、セグメントの利益は1,056百万円（前年同期比5.7%減）となりました。

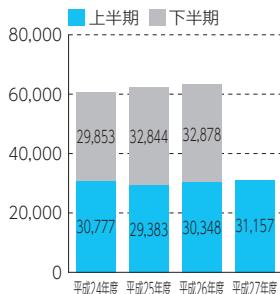
#### ②ダイカスト事業 北米

北米では、アメリカでの過去最高水準となる自動車販売の影響を受けて受注が増加したことに加え、部品の新規立ち上がりや、円安基調にある為替換算影響等により、売上高は23,776百万円（前年同期比24.7%増）となりました。収益面においては、増収効果に加え生産性改善等の施策によりアメリカ工場が黒字化したこと等により、セグメントの利益は470百万円（前年同期はセグメントの損失608百万円）となりました。

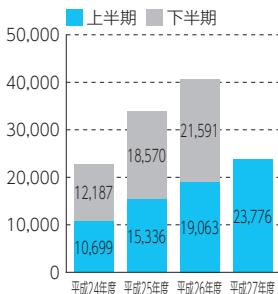
#### ③ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーにおいて、経済減速などにより自動車市場の伸び率が鈍化した影響に加え、市場の需要変化を要因とした販売減少が重なり、当社でもこの影響を受けているものの、円安基調にある為替換算影響等により売上は微増となりました。インドでは、新規部品の量産開始効果により売上が増加しました。この結果、アジアでの売上高は13,618百万円（前年同期比4.9%増）となりました。収益面においては、中国における受注減少の影響があったものの、インド工場における収益改善等により、セグメントの利益は106百万円（前年同期比56.4%増）となりました。

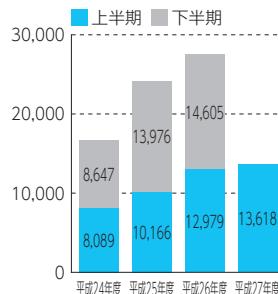
■売上高 日本(連結) (単位:百万円)



■売上高 北米(連結) (単位:百万円)



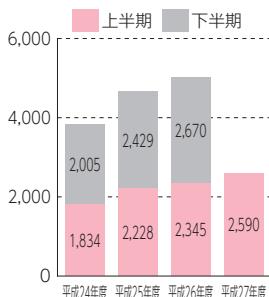
■売上高 アジア(連結) (単位:百万円)



### アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、受注量は前年同期とほぼ同水準であるものの、販売価格が上昇したことにより、売上高は2,590百万円（前年同期比10.5%増）となりました。収益面においては、使用原材料価格の下落及び原価低減活動による効果等により、セグメントの利益は149百万円（前年同期はセグメントの損失33百万円）となりました。

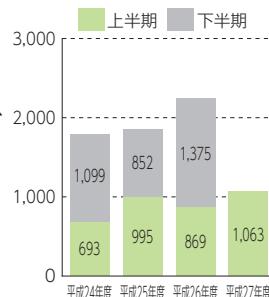
■売上高(連結) (単位:百万円)



### 完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のグリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により、売上高は1,063百万円（前年同期比22.2%増）となりました。収益面においては、増収及び原価低減活動による効果等により、セグメントの利益は41百万円（前年同期はセグメントの損失12百万円）となりました。

■売上高(連結) (単位:百万円)



# 四半期連結財務諸表

## Consolidated Quarterly Financial Statements

### ■ 四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 平成27年9月30日現在	前期末 平成27年3月31日現在	科 目	当第2四半期末 平成27年9月30日現在	前期末 平成27年3月31日現在
<b>資 産 の 部</b>			<b>負 債 の 部</b>		
流 動 資 産	47,435	48,464	流 動 負 債	48,428	48,502
現金及び預金	6,337	5,885	支払手形及び買掛金	13,497	14,388
受取手形及び売掛金	23,744	24,229	電子記録債務	6,357	6,548
電子記録債権	1,795	1,450	短期借入金	6,567	6,187
商品及び製品	3,549	4,166	1年内返済予定の長期借入金	11,805	11,806
仕掛品	4,635	4,549	未払法人税等	545	777
原材料及び貯蔵品	3,734	3,887	賞与引当金	1,448	1,532
その他	3,640	4,296	役員賞与引当金	-	13
貸倒引当金	△ 1	△ 1	製品保証引当金	135	196
			その他	8,069	7,051
固 定 資 産	101,983	100,367	固 定 負 債	37,821	38,225
有形固定資産	89,528	88,133	長期借入金	28,535	28,845
建物及び構築物（純額）	17,058	16,737	退職給付に係る負債	4,854	4,816
機械装置及び運搬具（純額）	50,473	49,570	その他	4,431	4,563
土地	5,282	5,294	<b>負 債 合 計</b>	<b>86,249</b>	<b>86,728</b>
建設仮勘定	8,516	7,591			
その他（純額）	8,197	8,939	<b>純資産の部</b>		
無形固定資産	1,642	1,541	株 主 資 本	50,277	49,545
投資その他の資産	10,811	10,692	資 本 金	6,939	6,939
投資有価証券	7,033	7,160	資 本 剰 余 金	10,180	10,180
その他	3,778	3,532	利 益 剰 余 金	33,428	32,730
貸倒引当金	△ 0	△ 0	自 己 株 式	△ 270	△ 304
資 産 合 計	149,419	148,831	その他の包括利益累計額	12,761	12,446
			その他有価証券評価差額金	3,384	3,468
			為替換算調整勘定	9,657	9,301
			退職給付に係る調整累計額	△ 280	△ 324
			新 株 予 約 権	131	111
			純 資 産 合 計	63,169	62,103
			負 債 純 資 産 合 計	149,419	148,831

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**■ 四半期連結損益計算書 (要旨)**

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	前第2四半期累計 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで
売 上 高	72,206	65,606
売 上 原 価	64,947	60,078
売 上 総 利 益	7,259	5,527
販売費及び一般管理費	5,440	5,048
営 業 利 益	1,819	478
営 業 外 収 益	243	234
受 取 利 息	9	10
受 取 配 当 金	77	70
為 替 差 益	-	0
ス ク ラ ッ プ 売 却 益	72	69
そ の 他	83	83
営 業 外 費 用	826	667
支 払 利 息	665	598
為 替 差 損	139	-
そ の 他	21	68
経 常 利 益	1,236	45
特 別 利 益	60	20
固 定 資 産 売 却 益	5	6
補 助 金 収 入	55	14
特 別 損 失	68	62
固 定 資 産 除 売 却 損	68	62
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	1,228	3
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	610	700
法 人 税 等 調 整 額	△ 253	△ 588
四 半 期 純 利 益 又 は 四 半 期 純 損 失 (△)	872	△ 107
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益 又 は 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 損 失 (△)	872	△ 107

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

**■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)**

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	前第2四半期累計 平成26年4月1日から 平成26年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,897	3,673
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,767	△ 7,412
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 584	1,670
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△ 129
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	548	△ 2,198
現金及び現金同等物の期首残高	5,789	8,791
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,337	6,593

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## トピックス

Topics

## ● (株)アーレスティ栃木 第6工場増築

当社子会社である(株)アーレスティ栃木は、生産量増加に対応した能力増強のための第6工場の増築工事が9月に竣工しました。

増築面積は1,143㎡で、そこに2,250tダイカストマシンを2台増設し、生産効率を高める製造ラインとする予定です。

なお、生産量は3,100t/月から3,300t/月と200t/月増加します。

今後も品質の優れたダイカスト製品を安定的に供給し、より一層お客様のお役に立てるよう取り組んでまいります。



## ● 米国アーレスティウilmington工場増築

当社子会社であるAhresty Wilmington Corporationは、生産量増加に対応した能力増強のため増築工事を行っていましたが6月に竣工しました。

増築面積は4,320㎡で、そこへ850tダイカストマシンを2台増設し、2015年7月に稼働を開始しております。

今後も品質の優れたダイカスト製品を安定的に供給し、より一層お客様のお役に立てるよう取り組んでまいります。



# 株式情報・会社の概要・株主メモ

## Stock Information・Corporate Information

### ■株式状況（平成27年9月30日現在）

#### ● 株式数及び株主数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	26,027,720株
株主数	4,139名

### ■大株主（上位10名）

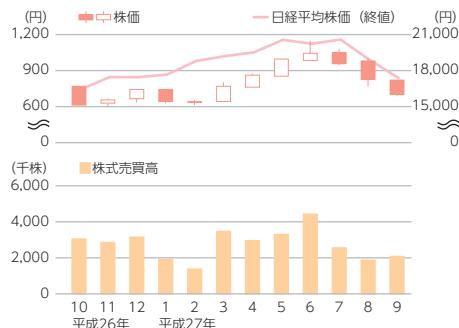
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,916	7.4
MSCO CUSTOMER SECURITIES	933	3.6
高橋 新	915	3.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	765	2.9
日本軽金属株式会社	657	2.5
THE BANK OF NEW YORK – JASDECNON – TREATY ACCOUNT	589	2.2
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	579	2.2
スズキ株式会社	565	2.1
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	564	2.1
アーレスティ取引先持株会	563	2.1

(注) 1. 株数数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は自己株式(181,346株)を控除して計算しております。

### ■所有者別株式分布状況



### ■株価・株式売買高の推移



### ■会社概要（平成27年9月30日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	69億3,909万円
従業員数 (単独)	880名

#### 企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,106名
ダイカスト事業北米	2,738名
ダイカスト事業アジア	2,267名
アルミニウム事業	53名
完成品事業	29名
全社 (共通)	81名
計	7,274名

### ■取締役（平成27年9月30日現在）

代表取締役社長	高橋 新	取締役 (監査等委員)	見目 康夫
取締役	石丸 博	社外取締役 (監査等委員)	早乙女 唯夫
取締役	野中 賢一	社外取締役 (監査等委員)	志藤 昭彦
取締役	浦生 新市	社外取締役 (監査等委員)	浜村 承三
取締役	金田 尚之		

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)

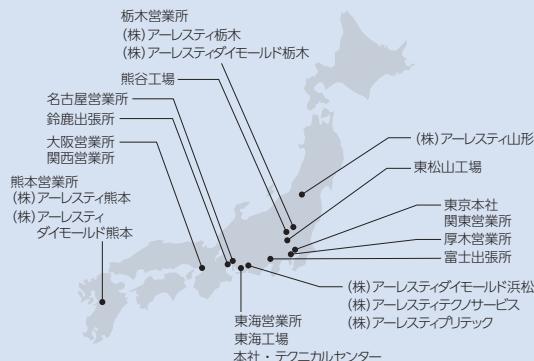
上場証券取引所 東京証券取引所  
 公告の方法 電子公告により行う  
 公告掲載URL <http://www.ahresty.co.jp>  
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ■事業拠点一覧 (平成27年9月30日現在)

### 国内ネットワーク



### 海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

## Research Service Technology

# 株式会社 アレスティ

### 東京本社

〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1  
 中野坂上サンブライツツイン5F  
 TEL.03-6369-8660 FAX.03-5358-5331

### 本社 (本店)

〒441-3114 愛知県豊橋市三弥町中原1番2号  
 TEL.0532-65-2170 FAX.0532-65-2163



ISO/TS16949:2009認証取得

東海工場、東松山工場、  
 株式会社アレスティ栃木、  
 株式会社アレスティ熊本、  
 株式会社アレスティ山形、  
 株式会社アレスティプリテック  
 本社/本社工場、  
 株式会社アレスティプリテック豊橋工場



ISO9001:2008認証取得  
 JQA-QMA14412

東京本社 (但し、商品営業部を除く)、  
 本社・テクニカルセンター、  
 東海工場、東松山工場、熊谷工場、  
 株式会社アレスティ栃木、  
 株式会社アレスティ熊本、  
 株式会社アレスティ山形、  
 株式会社アレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得  
 JUSE-RA-057

商品営業部及び関連組織



ISO14001:2004認証取得

東京本社、東海工場、  
 東松山工場、熊谷工場、  
 本社・テクニカルセンター、  
 株式会社アレスティ栃木、  
 株式会社アレスティ熊本、  
 株式会社アレスティ山形、  
 株式会社アレスティプリテック、  
 株式会社アレスティダイモールド浜松、  
 株式会社アレスティダイモールド熊本、  
 株式会社アレスティダイモールド熊本、  
 株式会社アレスティテクノサービス

2015年1月16日をもって国内全工場のISO/TS16949認証取得が完了いたしました。



見やすいユニバーサルデザイン  
 フォントを採用しています。